宇治川題雅威卿あじろさしたる所　光祖卿

紅葉を波のよせくる宇治河やあじろの床も錦さしけり

〔枕草子一〕清涼殿のうしとらのすみの、北のへだてなる御さうじには、あらうみのかたいきたる物どものおそろしげなる、手ながあしながをぞかゝれたる、うへのみつぼねの戸をしあけたれば、つねにめに見ゆるをにくみなどしてわらふほどに、〇下略

〔拾遺和歌集四冬〕寛和二年、清涼殿のみさうじに、あじろかける所、　よみ人しらず

あじろ木にかけつゝあらふからにしき日をへてよする紅葉なりけり

〔鳳闕見聞圖說下〕渡廊　殿上より虎間に出る所也、著聞集に、渡殿に、はねむまよせむまの障子を立て、又同じ渡殿の北邊、朝かれゐの前に、馬形の障子侍りと云々、案に渡殿とあるは渡廊なるべし、則朝餉間の南に當れり、其處に、はね馬よせ馬のついたち障子有、又春曙抄に、わたどの廊下也と云々、

〔侍中群要八〕御書使事

被物令持從者參殿上口、自取御返事幷持祿懸肱昇了、祿落置零駕障子〇零駕、前文作巴禰馬、北方、自大盤所令通見云々、

〔雲圖抄〕祭日御禊儀

今曉行事藏人、臺盤所廊、幷御裝物所前引繩懸、舞人陪從裝束、分給時主上出御鬼間、或垂御簾、近代不垂非也、馬形障子撤之、

〔枕草子五〕五月の御さうじのほど、〇中略　あきのぶの朝臣いへあり、そこもやがて見んといひて、車よせておりぬ、ゐ中だち事そぎて、馬のかたかきたるさうじ、あじろびやうぶ、みくりのすだれなど、ことさらにむかしの事をうつしいでたり、